

野菜を食べて健康に



野菜づくり講座の様子。すぐに役立つアドバイスをしている



安達さんの著書と監修本



野菜づくり講座

先月、西の里会館で行われた「野菜づくり講座」。講師は、長年野菜の品種開発や栽培技術を普及する仕事に携わっている安達英人さんだ。この日は、落花生の栽培法を中心に、野菜作りのコツを話した。集まった市民は熱心に耳を傾けていた。

質問の時間には、次々と手が挙がり、安達さんは一つ一つ丁寧に回答。参加者からは「毎年テーマの野菜が違うので、今年はそれに挑戦しよう」と意欲が湧きます。お話も分かりやすいです」との声も聞かれるなど、好評だった。

野菜への思い

小樽市の出身。祖父母の家が農家だったことから、子どもの頃、夏休みに遊びに行くと、もぎたてのトマトやトウモロコシを食べさせてもらった。「採れたての野菜は、

食文化の向上に努める 安達 英人さん

あだち・ひでと
美咲き野在住。
野菜の品種、技術開発の仕事に携わり、現在は種子卸会社の営業職。豊富な知識を生かし、野菜作りの技術指導や新種の野菜の栽培方法について講演活動を行っている。
西の里地区生涯学習振興会主催の野菜づくり講習会で、6年続けて講師を務めた。
北海道フードマイスターなど各種資格を取得。北海道らしい食づくり名人にも登録されている。

本当においしかったんですよ」と懐かしむ。

大学の農学部で果樹や野菜の栽培を学び、卒業後は大手種苗会社に就職。白いトウモロコシ「ピュアホワイト」の開発などを手掛けた。8年前、千葉県に本社がある種子卸会社に入社し、北海道営業所長に就任。道内の小売店へ卸売り業務を行っている。種を販売するだけではなく、直接、直売所の方と話して、おいしい食べ方を紹介するなど交流しているそう。

「生産者の皆さんが心を込めて作った野菜なので、多くの方に食べてもらえるよう、お手伝いできたらと思います」。

新規就農者や直売所経営者、消費者向けの講演活動で、道内各地に足を運んでいる。

新顔野菜の紹介

安達さんが力を注いでいるのは、ロマネスコ(カリフラワーの一種)

やスイスチャード(ほうれん草の一種)など珍しい「新顔野菜」の普及だ。栽培法があまり知られていないので、農業専門誌に寄稿したり、育て方についての本を書いたりして広めている。

「本を読んでくださった方から、上手に作れて、おいしかったと言ってもらえる事が、何よりうれしいですね」と笑顔で語った。

北広島で暮らして

北広島に移り住んだのは11年前。札幌にあった当時の会社と長沼町の研究農場を行き来していたことから、中間にある北広島に住もうと考えた。「国道が近くを通っているので移動に便利ですね。子どもたちが通う学校も近くて良かったです」と話す。

体に良い野菜をもっと食べてもらいたい。作る楽しさを伝えたい。そう願いながら、安達さんは活動を続けるだろう。

